

「国語教育研究 I」の授業の検討

国語教育講座 中西 淳

1. 授業の概要

本授業は、国語教育の問題点を踏まえた上で授業を構成することができるようになるための、授業構想力を養成するところにその特徴がある。目標及び具体的な到達目標は以下の通りである。

<目標>

○国語教育の主要論文・実践や教科書を取り上げながら、国語教育のあり方について考究することができる。

<具体的な到達目標>

○自らの問題意識に即しながら国語科教育に関する主要論文を探し出すことができる。

○論文を批判的視点を持つて的確に読むことができる。

○自らの国語教育観を深めることができる。

これらは、教育学部 DP の以下の二点に該当する。

○自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)

○教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

2. 授業の展開

授業の展開は以下の通りである。

- ① はじめに一授業のオリエンテーション
- ② メタ認知能力とは
—学び方を学ぶ—
- ③ 学習指導要領の変遷(国語教育の目標)
—新学習指導要領と旧との比較を通して—
- ④ 自分が受けた授業を振り返る
—問題意識の立ち上げ—
- ⑤ 読書指導
—読書生活指導の考え方—
- ⑥ 文学的文章の授業を考える
—登場人物の気持ちを問わない方法—
- ⑦ 国語教育と道德教育
—夕焼け論争を通して—

⑧ 学習者の表現を捉える(1)

—発達を視点として—

⑨ 学習者の表現を捉える(2)

—ジャンルを視点として—

⑩ 教材の表現を捉える

—教材分析の視点—

⑪ PISA 型読解力の検討

—従来の読解力と比較して—

⑫ コミュニケーション教育を考える

—古典を文学として読む—

⑬ まとめ(1)

⑭ まとめ(2)

受講生は15名である。

3. 授業の工夫点と留意点

本授業は、同様に基本的に学習者の問題意識に即して授業内容を決定していった。この点が本授業の最も大きな工夫点である。したがって、授業展開における内容は最初から計画していたものではなく、結果的に導き出されたものである。

授業にあたっては学習者の学習状況を把握しながら、次のことに留意した。

① 批判的視点の形成

学習指導要領の解釈において、学習者は一般的に『学習指導要領解説』などに頼りがちである。それらに頼るのではなく、自分の目でどのような特徴があるのか捉えることができるよう、批判的視点の形成をねらった比較読みを導入した(「教育の流れを捉える—新学習指導要領と旧との比較を通して—」)。

② 国際的視野の形成

PISA 型読解力の話題を契機として、「カナダ・オンタリオ州におけるコミュニケーション教育のあり方」を取り上げた。国際的視野から国語教育を考えていくことができるようにするためである。

③ 協議力の形成

学校現場では、授業の協議力が問われる。授業は基本的にディスカッション形式をとった。

発言の受け方、質問の仕方等に関する具体的な支援を行うことによってその力の育成を図った。

なお、前年の授業と特に異なる点は、必要に応じて事前学習として課題を出し、それに考えてくるよう指示を出したことである。

4. 授業のアンケート結果とそのまとめ

授業後に授業方法（受講生の問題意識を承けて授業を構想し展開するやり方）に関するアンケート（名前は無記入）を行った。以下、受講生のその記述をいくつか挙げる。

- 自分たちが持つ問題意識の中からテーマを設定し、一つひとつ考えていくという授業の流れは非常に学びやすかったと感じています。一方的に与えられるだけでなかったため、自らが主体となって学ぶことができました。また、自分たちの中の問題意識から考えていったため、より意欲的に学ぶことができたと思います。
- 学習者の問題意識に即して授業のテーマが設定されたため、興味のあるテーマが多かったです。他の人がどのような疑問を感じていたかを知ることができました。実際の子どもの作文や教材をみて、国語教育について考えられたことを知ることができてよかったと思いました。
- 自分たちの問題意識をもとに授業が進められていて自分自身意欲的に授業に取り組むことができたように思います。特に国際的な視点から考えるということを今までしたことがなかったのが良かったです。
- 問題意識から授業をしてよかった。自分の教育観がどんどん深まっていくのがわかる。PISA 型読解力など、新しい発見もあった。
- 問題意識を立ち上げて自分たち学生の中から出てきた意見をもとにその後の授業が進められていったので、今の自分たちが学んでおきたいテーマを切実に感じている部分を考えることができてよかったと思います。
- 第4回以降、学生の持っている問題意識、ニーズに応えるような形で進められていたので気づきの多い良い時間が過ごせたのではないかと思います。
- 授業の展開としては自分たちで問題意識を立ち上げ、それについて全体で考え解説してもらえたのですごくわかりやすく良かったです。学習指導要領の変遷について考えたのは、

問題意識を立ち上げるときに役立つこともあったので進め方は、このままがよいのではないかと思います。

- 最初に自分が取り上げたいものやみんなが何について疑問や関心を持ってかを取り上げた上での授業だったので意識の共有ができてよかったと思います。また、自分が知りたかったことの基礎的発展的な内容だったので、自分がこれから学ぶ上での新たな視点を得ることができたと思います。
- 一般的な授業と違って私たちのニーズに合わせた授業展開であったと思います。私たちが何を知り何をしたいのかを先生が問うてくれるので、私もやりやすかったし、自分が何をしたりのかももう一度自分で考えられて良かったです。
- 表現を捉えるというところをもっと掘り下げて学びたいと思った。発達の視点は特に詳しく学びたいと思った。授業を通して概念的で難しいと思う部分もあったけど、1年のときや2年のときに受けた先生の授業でも言われていた問題意識の立ち上げが、今回はより理解できたと思う。
- 私たちの問題意識や疑問点の題材にいただいたので、とてもためになりました。
- 私たちの問題意識や疑問点の題材にいただいたので、とてもためになりました。
- この授業では、国語教育の現実的な問題について考えるヒントを得ることができました。したがって、この授業で問題について考えることができたかと言われると、ただ承けるだけではそれはできていないと思います。この授業で得られたヒントから自分たちで考えていかなければならないと思います。各問題について考えていきましたが、それぞれ一コマでは物足りない気がしました。
- 表現をとらえるというところをもっと掘り下げて学びたいと思った。授業を通して概念的で難しいと思う部分もあったけど、1年2年の時にうけた授業でも言われていた意識の立ち上げが今回はより理解できたと思う。
アンケートを見る限り、問題意識に即して授業内容を構成していくという展開に対する評価は高いといえよう。また、レポートの内容も充実したものであった。さらに、国語教育のあり方に関する考究的態度が育成されている様子も伺えた。授業の工夫の効果はあったように思われる。

